

# こなん水辺公園ニュース

2014年3月号(通算第14号)

こなん水辺公園解説員グループ編集

春の始まりは、茶色と黒色の世界です



南のハス畑から芝生広場を撮りました。

3月11日の写真です。南風が吹く日でしたが、気温は上がりず寒い日でした。午前中は快晴で、訪れる方もいましたが、午後からは曇り・強風、夕方には雪も・・・。

ヤナギやエノキの芽吹きにはもう少し時間が必要です。ハスも枯れた状態で、命の輝きは感じられません。茶色と黒色の世界です。

## 枯れたガマの穂と セイダカアワダチソウの新芽



枯れたガマの穂です。ちくわ程の大きさで、切り落とされ横たわっています。この穂の中には何万個の種が入っています。でも、種から芽吹くことはほとんどありません。ガマは、地下茎を持っていて、この部分から発芽し、子孫を残していきます。

セイダカアワダチソウも地下茎を持っていて、春一番に芽吹きます。ここの公園では、ヨモギと同じ頃に葉を付けます。水際には、最初に見える緑です。

## ノイバラの芽



草が生い茂ると目立ちませんが、アシ原の中には多くのノイバラ（野茨）が生えています。

白い小さなバラの花には、小さな昆虫が集まり、心を癒してくれます。6月が開花の頃です。

## キノコもありました



ゆっくりと流れる池の水。その中には、フナやモロコが暮らしています。ゲンゴロウやヤゴたちも潜んでいます。

やがてやって来る「春」に向けて産卵の準備も進んでいる事でしょう。池の底では、ガマやアシが静かに芽を出し、水面にひょっこりと顔を出す暖かい春も、もうすぐです。



## トビのつがい



3月10日、公園の芝生の外灯に仲良く止まっているトビのつがいです。10分ほど前に交尾をしていました。今年も子孫を残してくれる事でしょう。

河北潟の周りには多くの猛禽類がいます。トビをはじめ、ミサゴやロチュウヒが留鳥として見られます。

トビの個体数は多く、優位に存在しています。しかし、チュウヒなどの個体数の少ない種は、厳しい状態です。

秋に北から来たハイロチュウヒやノスリは、北へ旅立ち、公園の一角では、トビが制空権を握っています。羽ばたく事が少ないトビの滑空は勇壮で、優雅に見えます。翼の模様もきれいで、見栄えがします。



3月11日 昨年の巣と、木に止まるトビ

公園の南の端から外に出ると大きなケヤキの木があります。中央右に昨年の巣があります。わかりますでしょうか。

中央上にトビが止まっています。交尾

後の夫婦のトビだと思います。

もう一羽のトビがカラスを追い払う為に飛び回っていました。ケヤキが葉を付け、巣が見えなくなるまでは大変です。

## 折れた枝



公園の南にある小さな林にある立ち木です。何年もの間、虫の住処にされ、たくさんの穴が開きました。根元から折れた部分は、数年前の感じです。1mほどの高さで今年の冬にやられました。2箇所折れが確認できます。



虫の種類は分かりませんが、カミキリなどの仲間だと思います。幹は生きていますし、先の枝には新芽も見られます。

## ツバキの花



冬から初春の花として目に止まるのは、ツバキやサザンカの仲間でしょうか。

ツバキも大輪の物は本当に美しく見栄えがします。ここの公園内にも数本の大輪のツバキがあり、今が見頃です。今日は風が強く昆虫は見えませんが、穏やかな日には、蜜を吸う姿が見られます。

(写真・文 河合雄二)

発行 2012年3月11日

制作 こなん水辺公園解説員グループ (NPO 法人河北潟湖沼研究所内)

連絡先 〒929-0342津幡町北中条ナ9-9 河北潟湖沼研究所 tel.076-288-5803